

令和3年度第3回京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会 会議録

1 開催日時 令和4年1月11日（火）午後1時30分～午後2時50分

2 開催場所 京丹後市役所（2階）301会議室

3 出席者氏名

（1）京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会委員（6名中6名出席）

行待佳平 委員長、今井みどり 副委員長、田中匡代 委員、小谷順一 委員、
川口勝彦 委員、吉岡高博 委員

（2）事務局、関係部局

川口誠彦 市長公室長、松本晃治 市長公室政策企画課長

増田あづさ 市長公室政策企画課主任

小坂貴寛 教育委員会事務局学校教育課長

松本祐奈 教育委員会事務局学校教育課主任

久保有紀 教育理事兼総括指導主事

川村義輝 生涯学習課長

溝口容子 教育委員会事務局教育総務課長

吉岡祥嗣 教育委員会事務局教育総務課長補佐

4 議事等

（1）委員長あいさつ

（2）議事

ア 基金運用益等の状況について

イ 令和3年度基金運用益等活用事業の実施状況について

- ・京丹後市中学生海外派遣事業
- ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
- ・市民陸上記録会 in 京丹後はごろも陸上競技場
- ・京丹後市高等学校全国募集入学生応援事業

ウ 令和4年度基金運用益等活用事業（案）について

- ・グローバル人材育成事業～グローバルリーダーを育てるために～
- ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
- ・街角ピアノ in 京丹後（仮）
- ・京丹後市高等学校全国募集入学生応援事業

（3）その他

（4）副委員長あいさつ

5 公開又は非公開の別 公開

6 傍聴人の人数 0人

7 要旨

《議事経緯》

(1) 委員長あいさつ

明けましておめでとうございます。第3回の運営員会ということでお集まりいただきましてありがとうございます。昨年から今年も、昨年暮れにはコロナが収束するかと思いきや、やはりそうは問屋が卸さず、また大変な状況に入っていくのかという気がしてならないのですが、こうして皆さんが集まっているいろんな取組をするということは非常にしにくくなっています。いろんな考えをもって取組をしなければいけない、経済的にも文化的にも非常に大変な世の中になってきているので、これを良い機会に、いろんな意味で他方面で取組ができる知恵を皆さんで考えながら、これから先の取組を進めていかなければいけないとも思ったりしております。今日は令和3年度の間接報告と令和4年度の事業予定ということでご提案があると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 議事

ア 基金運用益等の状況について

(説明) 資料に基づき、事務局から説明。

(質疑応答) なし

イ 令和3年度基金運用益等活用事業の実施状況について **資料2**、**資料2-1～2-4**

ウ 令和3年度基金運用益等活用事業(案)について **資料3**、**資料3-1～3-4**

(説明) 資料に基づき、事務局から今年度事業の中間報告と次年度事業の提案。

(質疑応答) 各事業に関する質疑応答は下記のとおり。

【京丹後市中学生海外派遣事業】 **資料2-1**

質疑等なし

【グローバル人材育成事業～グローバルリーダーを育てるために～】 **資料3-1**

(委員) アプリを利用されるのはどういう形で利用されるのですか。持たせるだけでは何だかよく分からないのですが、それをどういう様な形で利用されるのか。

(学校教育課) 昨年末から、一人一台タブレットが小学生・中学生全員に配布しておりますので、そのタブレットにこのアプリを導入して持たせるということです。今おっしゃったように、ただこのアプリを持たせるだけでは使用頻度等々もどうやって把握するのかということですが、この ELSA Speak というアプリにつきましては、教師側の方で子どもたちがどれだけ練習しているかとか、どこにつまずきがあるのかとか、どれくらいの練習時間をその子がしているのかというあたり、また、AI が発音に対して評価もしてくれますのでその評価が一体どれくらいのレベルの評価をもらっているのかというものも、全てが教師側にデータを送っていただけるというシステムがありますので、それ

を活用しながら、伸びている子についてはもちろん評価してやったら良いことだと思いますし、なかなかそこに向かえない子どもについても即座に把握して英語の担当の方が指導できるという良さを持っております。

(委員長) ありがとうございます。先生も大変ですね。

(学校教育課) きちんと1枚の表で整理されて提示もしていただけるので、教師にとってもすごく分かりやすく提示してもらえます。一人一台タブレットを持っている時代ですので、個別最適の学びを提供するというあたりがすごく新市になってから言われているのにあたっては、一人一人の子どもたちの状況をしっかり把握して指導していくという部分では、我々教師側にとっても指導力向上につながっていくものではないかなという風に思っております。

(委員) 1年でこれをされるイメージですか。グローバルリーダーってなかなか1年ではできないと思うのですが、この0歳から5歳、小学校低学年1年生、2年生と段階があると思うのですが、1年でやるということは、前の年やった0歳から5歳の人が、次に1年生、2年生になったらまたその事業をやっていくというイメージではなくて、来年度の段階での0歳から5歳の人、小学校低学年の人というような、1年で終わるような事業というイメージですか。

(学校教育課) 例えば、まず最初に小学校の低学年が来年度 English Days ということでこういった外国語の事業に参加していただきます。その子ども達が次の学年になった時には、今度は English Camp ということで1泊2日の外国語の教育の充実を図るといような事業が待っている。またその次、中学校になった時には今度はオンライン留学であったり、ゆくゆくは海外派遣事業に繋がっていく。こういった、成長に合わせてこういった事業の取組を年を追って引き継いで行っていくような形をとっていきたいということです。

(委員) 分かりました。

(委員) 自分がアプリを使えないのでアプリのことはよく分からないのですが、今から20数年前に中学校でコンピューター学習ということで高価なコンピューターが入ったのですが、教師も子どもも分からないまま新しい機械の導入で、使えた学校もあるとは思いますが、私が勤めていた学校では全然使えなくて、何千万円のお金をパーにしたと思っています。実際、上から降ろされたことでどんどん良いことはやっていったら良いと思うのですが、それが子どもに生かせるのかどうかは検証してもらいたいと思います。実際、教師への負担というのが、その時コンピューターの時にできない中で教えていけないといけないということがあった。結局それが、先生たちに負担になるかどうかも含めて、予算はありますので、先生たちに負担にならないように予算をどんどん取って充実させてほしいなと思っております。

(委員) 小学校と中学校の間で考えておられるのが今の事業だと思うのですが、このグローバルリーダーを育てるためにという就学前のところから高齢者までの表があるのですが、ここで聞きたいのは、当然 SDGs ですので持続可能に継続的にやられると思うのですが、就学前から小学校に入るまでの人達とか、大学は少し置いておいて、一般の方、高齢者の一連の生涯的なグロ

ーバルリーダーというものを育てるプロジェクトといたしますか、方針といたしますか、それはないのでしょうか。そこが聞きたいのですが。

(事務局) これは学校教育ですし、生涯学習の中でもというようなことでしょうか。

(委員) そういうことになると思います。横の連携など。

(事務局) 全員にタブレットが配られたということが背景としてはあるということとして、そのタブレットを活用して自宅でも学習ができる。そこに今のアプリを入れればこんな学習ができるのではないかということで、予算をもって4年度から取組を進めたいということですし、今言われている学校に入るまでと社会人になってからの学びというのは、学びは同じなのですがやり方というのは考えないと、同じようなことにはならないので、その辺、生涯学習でそういうグローバルリーダーのようなものがあるのかなのか。今のところないのかな。

(生涯学習課) ないです。

(委員) タブレットが全員に配られたということが前提だということが先ほどの説明に無かったものですからちょっと分からなかったのと、やはりこの表を見せてもらおうと、そういうイメージがするのですよね。生涯学習も含めた英語力を高めていくという、そういう風に見えたものですから、それはどうするのかということが聞きたかったのです。

(事務局) 小学校・中学校の学びの中で英語力を身に付けていきたいと思いますというのが趣旨で、その身に付けたことで、卒業して以降もその分野で力が発揮できる人材育成ができるのではないかなという、そういう表だということですね。

(委員) 委員がおっしゃることも私も同感として、この表がとても理想的な、こういう形になったらいいなという図なので、やはりこの理想的なこの形が実現できるための何かやはり横の連携だったりとか、0歳から高齢者までというこの表に合った形がきちっとできての上での、この小中学生の英語力の評価ということになるのかなという風に思いますので、やはりその辺をできるだけ一貫して、この部分だけではない形も同時に作っていただくとという方向をとっていただくと、今提案していただいていることがより生きてくるというか、効果的に働いていくことなのではないかなという風に、私もそういう感じがしました。

(事務局) 少し補足ですけれども、今のこのグローバルリーダーを育てるための右側、大学生以降、成年、壮年、高齢者のところに枠で囲ってありますSDGsの貢献プロジェクトだったりといった記載があるのですが、全庁的にSDGsの未来都市というようなことで昨年度、国から選定を受けたことを受けて、次年度以降、様々な取組を進めていく予定としております。そういった中で、各プロジェクトがここに落とし込まれているという意味合いで捉えていただいたら良いかと思いますし、ICT×地域創生甲子園も、実際に今年商工振興課所管でやられている事業ということですし、一番下の未来人材ダボス会議の参加というようなことで書いてありますが、一定こういうような計画も持っておったのですけれども、今少し名前も変えておるのですが、次年度こういういろいろな特に若い方、あるいは成年の方、そういった方を中心に

こういった色々な町づくりの企画を出していただいて、そういった発表の場だったり、実際にそれを生かしてもらう。こういった取り組みも次年度以降も展開していく。こんな予定という風なことがありますのでご承知おきいただければという風に思っています。

(委員長) 私が一つだけ思っているのは、グローバル人材の趣旨がここに書いてあるのですけれど、どの程度まで底上げするのかというのが明確になっていなくて、基本的には英語なのでしょうけれども、英語のどのレベルまで生徒さんたちを引き上げるのか。日常会話くらいだったら慣れたらできるだろうと思うのですけれども、市民にしても海外に行ったって日常会話くらいできたらコミュニケーションできるんです、実際のところ。そうではなくて、もっと専門的なことになると全く異次元ですね。だから、日本語だって多分専門の方の会議録を読んだってちんぷんかんぷんなことがたくさんあると、日本語でも。だから、これはこれで私は良いと思っているのですけれども、学校教育で必要なものはもっと国語力をしっかり付けてあげるということも非常に大事なことなので、それを忘れないように、英語は会話くらいのレベルが聞き取りはできたら良いのかなというくらいのつもりで、それがステップアップで高校生、大学生、それから社会人になってからも相当皆さん会話力を身に付けていかれるわけですから、それが市民レベルになって、という流れかなという風に思ったりもしております。だから、今皆さんが意見を言われたので同じような意見ですけれども、一緒になって市民全体が市の中で大きく計画があって、その中で教育分野だとか社会分野だとかいっぱいあるので、それを目に見えるようにしてくださいというのが多分皆さんの意見であるように思いましたので、手を加えていただければと思います。

【韓哲・まちづくり夢基金事業補助金】 **資料 2-2**、**資料 3-2**

(委員) 青年会議所さんの作られた絵本なののですけれど、あれはどのような所に配布をされたか教えていただきたい。

(政策企画課) 小学校と中学校と図書館にも配架をされています。

(委員) 子どものいない家にはいかないということですね。

(政策企画課) 寄贈という形で学校の方にいただいているのですけれど、小学校の全児童 2, 394 冊、中学校はクラス単位というようなことで 220 冊、あと図書館・図書室に合計 60 冊ということで、予備も含めて合計 2, 700 冊というようなことで報告いただいております。

(委員長) 中間報告ということですので、また改めて報告があるということでしょうか。

(全委員) はい。

【市民陸上記録会 in 京丹後はごろも陸上競技場】 **資料 2-3**

(事務局) 記録会は来年はもうしないということですか。

(生涯学習) 陸上記録会につきましては、来年度以降も行っていく予定です。韓哲基金を使わずに一定の参加料も見込みながら行っていくこととしております。

(事務局) こちらには上げさせていただいていないのですが、市の予算の要求段階では、昨年度と同程度の額を要求しているようですので、最終的に取りまとめていくのは今第一次査定が終わったところで、これからが予算の山場になりますので、ひょっとしたらこちらの基金でという話が出てくるかも分かりませんが、少し含みおきいただけたらと思います。

(委員長) 次回には上がってくる可能性があるということのようです。

【街角ピアノ in 京丹後 (仮)】資料 3-3

(委員) 最終的なゴールみたいなところは何かイメージされていますか。置いて終わりのようなイメージを持つのですが、もっと最終ここまでもっていくみたいな何かしらのゴールのようなものは設定されていますか。

(生涯学習課) 来年度はまず1台設置をして、まずこういった有効活用等そういった場所を提供していきたいと考えておりますが、正直なところなかなか人の集まっただけの所がなかなか難しいなということで考えております。生涯学習課の内部でもこういったことをやろうということは発案がありましたが、社会教育委員会議の中でもそういった意見をいただいたこともありまして、具体的に企画をしていこうということになりました。ただ、先ほども申しました、十数台ありますので、ランニングコストとしては調律の費用がやはり掛かってくるとは思いますが、設置してしまえばあまり予算的には掛からないと思っていますので、最終的にどこにゴールというところまでなかなかはっきりと決められていないのですが、複数台設置していきたいなと現時点では考えております。

(委員) 僕のイメージなのですが、ピアノを設置すると思うのですが、人が集まる場所にポンと置くのではなくて、ピアノが欲しいなという人に提供してあげた方が次に繋がっていくような気がするなと思ったので、その場所というところもまた検討してもらったらなと思います。

(委員) 管理的なことはどういう具合に考えておられますか。設置されて、その設置した場所の、例えばマインとかだったらマインにお願いしますということではできると思うのですが、そういう施設にお願いをするのか、その後の管理を生涯学習課の方ですのかとか、そういう構想とかいうのはどういう具合になるのですか。

(生涯学習課) 日常的な管理につきましては、やはり設置する場所、設置先の組織団体様と相談協議をして決めていきたいという風に考えておりますし、やはり設置者は教育委員会、京丹後市になりますので、定期的な確認ですとかチェックにつきましては、責任をもってやっていく必要があるという風には考えております。

(委員) ここに出ているのは、チラシを配って、ペインティングをしてお披露目をして設置を開始ということなんですけれども、その設置した後に、テレビなんかであるように放送されるとか、弾いておられる人に対してこの曲を弾いている人はどんな人ですよとかいうようなテレビの放映があるじゃないですか。ああいうようなことも考えておられますか。

(生涯学習課) 課の中で検討する際には、やはり YouTube なんかで有名なアーティストの方ですとか有名な方がいらっしゃると思いますので、そういった方をお招きしてというようなことも話には上がったのですが、実際に費用的な面ですとか、なかなかそういったことは難しいだろうなという風に考えております。何らかのお金の掛からない方法で1年に1回、2回、そういった何かイベント的なことを考えてですね、子ども達に弾いていただけるような発表の場をそこでやっていただけるようなことを計画して市民の皆様に注目をしていただけるような取組は検討していく必要があるかなという風に考えております。

(委員) 希望なのですけれども、市民も対象でいいと思うのですけれども、外からピアノができる人が来た時に弾ける状態というのも良いかなと思うので、なかなか市民で弾ける人がどうかと思うところもありますので、もっと広範囲にもっといろんな方が弾けるような場所に設置していただいて、市民だけでなく他所から来た人も弾いていただけるような場所を考えていただけたらありがたいかなと思いました。

(委員) 謝金となっている部分については、ペイントのための何かということですか。

(生涯学習課) 内訳としましては、ペイントの講師さんに5万円、あとはピアニストとか合唱団の皆さんとか、お披露目会の時に想定をしております2団体に合計6万円、それとお披露目会の時の司会者の方への謝金を2万円ということで、合計13万円を計上しております。

(委員) やはり私も設置場所、それから管理のことについてはちょっと気になりました。そこだけ、きっちりとした方向に進めていただきたいなという風に感じました。

(委員長) 私がまた余計なことを言うかも知りませんが、場所が丹後王国はどうかと思って。NHKの街角ピアノを思い出すんですが、オープン的な公園で弾かれる場合も結構あったりして、屋根が無くてもどこでも。丹後王国なら、子ども達がパッと行って練習方々人がいない時でも弾きやすい。丹後王国なら半公共みたいな所だし、メインみたいな制約はないのかなと思ったりもしたりしたので、市民が行って勝手に弾ければ、委員が言われたように他所から来た人がパッと弾けるとかね。色んなことができるのかなという気がして、制約はあまり考えずに置けるような所を探されたらどうかという風に、意見にもなるのですけれども思いましたので、いろんなご検討をしてください。

【京丹後市高等学校全国募集入学生応援事業】資料 2-4、資料 3-4
質疑等なし

(3) その他 資料 4

(説明) 資料に基づき、事務局から次年度のスケジュールを説明。

(質疑応答) 特になし

(4) 副委員長あいさつ

皆さん、お疲れ様でした。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。今年度は、コロナ禍で事業もままならないという感じで規模を縮小された事業もあつたり、なかなかできなかったものもあつたかと思ひます。それでも、韓哲さんの基金につきましては、子ども達の夢を叶える基金でもありますので、これからもいろいろこの会議で相談しながら活用していきたいと考えております。また、次年度の事業につきましては、本日いろいろご意見をいただきましたことを実施にあたりましては配慮しながら活用していきたいと考えております。本日は長時間にわたりご意見いただきましてありがとうございました。お疲れ様でした。

以上のとおり、会議の顛末を記載し、相違なきことを証するため記名押印する。

会議録確認者： 印

会議録確認者： 印